

黒石市立小・中学校適正配置第4回検討委員会会議概要

1. 日 時 平成22年10月20日（水）午後1時30分～

2. 場 所 黒石市産業会館 4階 大会議室

3. 案 件

1. 委員長あいさつ

2. 活動報告「地区協議会の現状と課題及び地区と学校との関わりについて」

① 中部地区振興協議会 奈良委員

② 山形地区住みよい環境推進協議会 阿保委員

③ 上十川地区振興協議会 村元委員

3. 質疑応答

4. 会議における主な意見 ※（○印は委員の意見、→は事務局の回答）

【報告1】

奈良委員 これから協議会と中部のことについてお話をしますのでよろしくお願いします。
まず、中部というのはどの辺からどの辺までかと思っている方もおるかと思いますので、その辺から話を進めてまいりたいと思います。一番町から運動公園までが中部地区になっております。一番町の日本生命さんから、運動公園まで北田中、青山、上十川小学校が新築する時に、あけぼの町と青山の一部が向こうへ移りまして、野添のほうの青山は、現在も中部となっております。17年度の国勢調査において、世帯数は2,712世帯、人口では8,206名となっております。我々の先輩たちが挨拶をする時に、中部は特徴のないのが特徴というような挨拶をよくしていた事が今でも耳に残っています。というのは、文化財とかは中部に一つもございません。そんなことで中部には特徴がないと言っていたのかもわかりません。ただ、私はそうは思っていませんでしたが、中部の特徴としては公共施設が多いということです。農協があり、郵便局があり、警察があり、黒石病院があり、老人福祉センターがあり、スポカルがあり、農林総合研究センター、除雪センター、運動公園等の公共施設の多いのが特徴ではないかとみております。それに一部商店街もある。ユニバースとか「さとちょう」とか。人口も多いので住宅地であることには間違いございません。黒石市の4分の1から5分の1は中部が人口を占めているというのが特徴だと思います。人数が多いわけですから、老人施設などもたくさんあります。あしたばの里とか景楓荘、その他個人でやっている所も数カ所あるようです。それに黒石病院がありますが、開業医も相当あります。高橋医院とか田村眼科とか、寿町のほうにもあります。歯科医なども2つくらいはある。保育所なども3カ所ほどあります。ただ大きいだけでまとまりがないなかなか面倒な地域で、そういうことが言えるのではないのでしょうか。

それでは、中部地区振興協議会のほうに入りますが、先程みなさんに配布した資料にありますが、49年9月に誕生しております。現在は21町内会をもって構成しています。この協議会の毎戸の負担金は、よその協議会と比較しますと安いほうで毎戸あたり400円。去年の決算で会費においては842,400円、決算においては、2,649,543円、これは助成金や特別会計を合わせたの決算になっております。どこの協議会も同じかと思いますが、また町内会においても、若い人はほとんど町内会とか地区活動には興味を持っておりません。ただ寝るために来ているという様な感じで、町内などにはほとんど無関心であります。それと、私たちの町内は、農業だけでご飯を食べている人というのは1軒もないというのが現状で、あったとしても1軒か2軒だと思います。そういうことでありまして、3世代が住んでいる家庭は何十軒に1軒くらいしかございません。子供がいると言っても高校生まではいますけれども、高校を卒業しますとみなさんご承知のとおり、ここには働く場所がございませんので、残ったのは老夫婦や1人暮らし、あとは空き家、そういうことで最近1人暮らしマップや空き家マップを作らなければいけないのではという気もしております。それに、黒石は田舎町ではございますが、黒石市民も食べる物、見る物は東京とあまり変わらないわけですから、都市化の傾向にあると感じております。それと、地域のつながりが希薄化しているのではないかと、昔は向こう3軒両となり、遠い親戚よりも近くの他人、今はとなりの人は何する人ぞ、という感じでほとんど無関心な人が多いというのが現状ではないでしょうか。地域づくりは人づくり、町づくりからコミュニケーションづくりといいますが、なかなか面倒なのは、どこの協議会も同じではないかと思っております。この間のチリの落盤事故のリーダーのようなリーダーがいればと思ってテレビを見ていました。

今日のこの会議は、学校の適正配置検討の会議ですので、学校のことも若干申し上げて終わりたいと思いますが、私の住んでいる地域は中郷小学校区で、中学校は中郷中学校で、中郷中学校を構成しているのは、黒石小学校、北陽小学校、中郷小学校の3校ですが、生徒数では黒石小学校は265名、北陽小学校は121名、中郷小学校は438名、合計824名となっております。よその区域のことに口は出しませんが、近い将来においては、中郷中学校へ通っている学校が統合するのではないかと感想を私個人として持っております。誰にも相談していませんが、この3校をもって統合、新築したほうがよいのではないかとというのが私個人の考えです。それは、どうしてかと言いますと、もちろん老朽化もしますし、この前の耐震診断結果でも、黒石小学校の教室棟が要補強、体育館においては要改築、中郷小学校においても北教室棟も要補強で、体育館も要改築でございます。あっちにもこっちにも体育館を建てたりするよりも、平成元年から今まで、子供の数が40パーセントくらい減少していると読んだ記憶がありますので、仮にこの3校が統合して新築したとしても、何年か先になりますので、その頃になりますと、多分生徒数は600人台になっているかと思っておりますので、統合して新築したほうがよいのではないかとというのが私の考えです。

先程、協議会の組織図の資料を配布しましたが、どこの協議会も同じだと思いますが、協議会を構成しているのは、町内会及び各種団体、町内会の会長は理事になっておりますが、各種団体の長も理事と同じ議決権があります。学校教育の充実、子供たちがのびのび育ち、夢を育む環境づくりが大人の責任ではないか

と理解しておりますがどんなものでしょうか。これで私の時間は終わります。

【報告 2】

阿保委員 山形地区住みよい環境推進協議会の現在会長をしております、よろしくお願いします。山形地区の図面をじっくり見て、まず、地域が広いということ、父なる山、母なる川沿いに位置している、そして花巻も今は温泉がありますけれども、各町内またはすぐ隣の町内に豊富な温泉がある、そして牡丹平地区とは、ほんの少しの接点しかないという地域であるというのを改めて見ました。そして、感じたことは、我々の時代、30年代40年代は、家に風呂がない家庭が多いため、温泉や浴場に行くわけですが、老若男女が温泉を通して小さい時からのふれあいがあったのではないかと感じています。その中においていろいろな情報があり、コミュニケーションが発達していたと思われます。地図を見ると、胃のような形に感じまして、胃の中に人がいっぱいいて、胃液となるものが温泉ではなかったのかなという様なたとえをしてみたら、私も自分なりによく考えたものだなと思っている次第であります。要するに、温泉と銭湯で裸の付き合いが、ずいぶんこの地区のつながりを以前からつなげていて、よそとの接点も少ないというのもあって、自然の中でコミュニケーションがはかれる地域であったのではないかと感じております。

今現在は、小学校1つ中学校1つ幼稚園が1つという地域で、最近はPTAもがんばっているみたいで、学校に協力する人が増えて、小さいPTAなりによくやっていると話を聞いています。協議会に戻りますが、山形地区住みよい環境推進協議会と名付けた意味も知っていますが、これからの地区を考えると、最もふさわしい協議会名ではないかと感じております。いろんな行事もやってきたし、地域ぐるみの活動もしてきました。これからですが、新幹線に向けて何かしなければいけないのではないかとということで、新聞等に載っている初めて聞いた人はびっくりするようなイベント、私は工人ですけれども、山形地区には磨けば光る要素がいっぱいあると言われてきましたが、磨いてないのが玉に瑕、なんとか今、磨けば光る玉を磨きつつあるのかなと。地域的に中野のもみじもあるし、協議会も含め地区民が新幹線という文字を利用しながら、これを契機にまた何かしらやっていきたいと考えているところです。

750世帯、約3,000人の地域ですが、地域の活動も減っているのは確かですが、なんとか活動を増やしながら、地域全体で足並みを揃えながら何かしたいという気持ちになっています。協議会の組織としては、いろんな組織の中に入れながら、地域の発展のために協力してもらっているというのが実情です。付け加えるとすれば、個人的な意見は言えませんが、学校に関しては今現在、新築を陳情している最中でありまして、他地区との接点が狭いので、この後もずっとあずましい胃袋の中で子供たちを過ごさせたいと思っている次第であります。

【報告 3】

村元委員 上十川地区振興協議会は黒石で10番目に設立ということで、市内で一番新し

い協議会でございます。組織として、総務、生活環境、体育、まちづくり、この4つの部門で活動しています。まず1月に新年会を行っております。前年度地区在住で、活躍した人を表彰して懇親会に入りますが、その前にまちづくりと総務委員の企画で講演会を開いております。今年は演舞交流会と表しまして、上十川保育園が演劇、あけぼの保育園は和太鼓演奏、そして上十川小学校6年生による獅子踊りを踊ってもらってから、今年は新年会をやりました。獅子踊りの話は後で詳しくしたいと思います。2月になりますと、シニアリーダーと子供会が中心となって雪像作りをします。ズームインで紹介され、ズームイン、チャーミンの雪像を作りまして大変好評でございました。さまざまな所から見に来たりして、テレビの力はすごいなと思いました。2月は、お年寄りとの交流と称して、縄なりとかずぐりまわしなどをして、一緒に遊ぶなど交流を深めています。6月の第1日曜日は、史跡めぐりハイキングと称して、こちらはまちづくり委員会が主催してやっています。歴史に関するテーマですと、結構人が集まり今年で3年目になります。毎年新聞記事で募集をして、小学生から70歳代、あと上十川小学校の先生、保育所の先生も参加しております。大体40人くらいで、スタッフ20名、合計60名から70名の人数でハイキングコースを歩いております。上十川地区にある12カ所の石碑や文化財を、ガイドをつけて約15キロを8時間かけて歩きます。お昼には、十川の山で採れた山菜でてんぷらを揚げて振舞って、帰ってからは婦人部の協力でおにぎりや肉汁を食べて一日を過ごしています。7月は夏まつりです。こちらは、子供会、児童館、母親クラブが主体となって出店とか、またこの時も祝舞いと称して上十川小学校の6年生が獅子踊り、児童館の子供たちのよさこいソーランで賑わっております。8月はよされ踊りの参加で、婦人部が踊りの指導をしています。9月も敬老会で、こちらも新年会同様保育園、児童館、上十川小学校の獅子踊りでお年寄りを喜ばせております。

あと協議会が中心となって、上十川地区教育を考える会を年2回行っており、今年で3年目になります。参集範囲は上十川小学校と六郷中学校教職員・PTA・各町内会長・子供会・婦人部・消防部・保育園・児童館・公民館の執行部と各専門委員長、こういう内容でお話して協議会長が司会進行を務めております。小・中学校の生徒指導の先生から万引きとかの話をしていただいています。一例として、ゲームソフトの万引きをするために、タグが付いているので2人1組になって窓から投げて、下の人が受け取るという手口を使ってやったという話をされておりました。また、放課後や休日に、児童館や保育園での子供たちの遊び方とか、遊具のいたずらもずいぶんあったそうです。また、親の対応とかも保育園の先生からお話がありまして、学校ではわからないような情報がありました。不審者対策として、こども110番の再確認、消防部でも毎月夜回りする時に、子供たちの動向を見て一声かけるようにしました。その結果、非行事例がなくなったと聞いております。地域住民が子供の非行防止の意識を持ったということが、結果に表れたと感じております。

最後に獅子踊りですが、400年くらい歴史のある黒石市ただ一つの獅子踊りですが、私もその中の一員ですが、だいぶ高齢化しておりまして、最近では獅子が踊っているというりも、獅子に踊らされているという感じがしてきていますが、どこの伝統工芸団体も後継者不足が悩みの種です。上十川小学校から総合学習の一環として、6年生に教えてくれないかという話がきました。実はずっと前にも

やりましたが、この時は獅子踊りクラブという形で学年関係なく教えたのですが、結局クラブの顧問の先生がいなくなると、また最初からになって鎮静化してしまったこともあるわけです。今は学校の先生、保護者の協力のもとに、六年生を主体としてずっと続けたいという話で、4月から9月まで公民館や体育館で週に2、3回2時間くらい練習しています。おかげさまで去年もあちこち呼ばれて、新年会、夏まつり、敬老会、そのほか運動会でもやりました。学習発表会でもやる予定です。よされ夏祭りの郷土芸能の発表会、5月に子供育成連合会の50周年式典もありまして華を添えました。6年生が卒業する時に文集を書きますが、去年の6年生は36人中25、6人は獅子踊りの事を書いていて、いかに一生懸命やったか、つらかったか、印象に残った一つの出来事だったと思っていますが、こんなに打ち込んだことはなかったのでしょうか、中学生になっても続けたいという子も出てきて、やってよかったと思っています。関係者のご協力のおかげでできたことですが、子供たちの一つの自信につながれば、いい方向に向かってくれればやった甲斐があったと思っています。子供たちが参加すれば人が集まるので、それもねらいですが、家族で晩御飯の時とかに共通の話題が持てます。最近の凶悪な事件・事故は、人間関係の希薄さみたいなものが大きな一因を占めているのではないかと考えているのですが、こういう共通の話題を家族で持てれば、事故防止につながるのではないかなと思っています。

最後に、課題としてはこの地区協議会でも次期人材の面で、世代間が空きすぎるので、できれば今PTAをやっている若いお父さんが入ってきてくれればうまくつながりがつくのかなと。おかげさまでうちの地区はうまく行っているような感じがしています。以上で事例報告を終わります。

○ 学校との関係を具体的に、何かありましたら教えていただけたらと思います。

阿保委員 山形地区としては、地区と小・中学校合同の運動会、川で親しもうということ、小学生40名ほどでダム協力を得て、漁業組合の魚の提供によって川のじゃっこつかみをやりました。

奈良委員 直接学校と一緒にやるということはあまりありません。中郷小学校の場合は、生徒数が多いですからそういうことはありませんが、育成会とかPTA活動においては一緒にやっております。私たち協議会だけでなく、福祉協議会、婦人会も老人クラブもみんな一緒になって、じゃっこつかみとか雪まつりとか、世代間交流事業としてやっています。

阿保委員 もう一つ。みなさん新聞でご存じだと思いますが、ジャンボこけしを作ったんですが、小学校、幼稚園にあえて時間を作ってもらって、絵付けをさせたり触らせたりして、私が小さい時絵付けをしたという思いをさせたいという事で体験させました。

○ お二方からも出たんですが、地域によっては運動会を地区と一緒にやられている所が多いように思われます。多分いい成果が上がっていると思いますので、その辺のところのお話を聞かせていただけたらと思います。

村元委員 上十川地区は、六郷中学校と一緒に合同運動会をやっています。上十川振興協議会と、六郷振興協議会が学区ということで、事務局が毎年交代でやっております。学校側から、生徒の運動会でないので、走ってもただらだらするとか、本気でやっていないと。最近は大いぶよくなりましたが、中学校側からするとあまり歓迎されていない感じがします。

○ 14、5年前から、地区と一緒に運動会をやっています。当初は学校側と一緒にやりたくないような顔をしていましたが、十何年も経てばそれがもう行事になってしまっています。

○ 追子野木小学校も昔から一緒にやっていて、卒業してしまった父兄たちが参加できるのも楽しみだし、孫たちがいないのに、見に行くのがちょっとというので、参加したり見に行っている人がたくさんいて、これはずっと続けられると思います。

阿保委員 最初は中学校のほうがだらけていました。それが、回数を重ねる毎にしっかりやるようになりました。まだ問題はありますが、だんだんいいほうに進んでいるし、それぞれのPTAにアンケートを取ったら、だいぶ良くなっているという結果が出ました。

○ 某中学校が荒れて、新築した後に運動会をやる時になって、地区とPTAと一緒にという話がなかったですか。

→ 学年のクラスごとに、地区のテントを張って、親が見に行くという雰囲気でした。

○ 地区の中で、PTAの会長さんとかを、特別な役職につけて待遇なさっているのかと、学校と地区との関係は、会長さんとして対等なイメージを持っていच्छやるのか、それとも学校のために何かするのか、イメージとしてどういう感じなのか教えていただけたらと思います。

奈良委員 中郷小学校のPTA会長は、協議会の会合には必ず出席しています。決議権もあります。町内会長が理事ですけれども、理事も各種団体も議決権は同じです。

○ 中郷小学校の校長先生と話をする時は、どんな感じですか。

奈良委員 いろいろなものに、ご案内は差し上げており大体は来ております。学校長とは対等まではいきませんが、それに近いくらいの話はできます。

村元委員 PTA会長よりも学校長優先のかたちで、学校長からPTA会長へという連絡でうまく通っているように私は思っていますが、特別、PTA会長を協議会が、ああだこうだということはやっていません。

阿保委員 小、中学校のPTA会長は、町内会と同じ理事になっていて、理事会に来てい

ます。学校長には、会議の案内を出して来てもらっています。

委員長 他にないですか。やっている事業が例年通りで、昔からのやり方を覚えている人がとにかく先頭に立っているという事で、後継者を育てにくいというか、そういった意味では、新しい事業をやっていくのはすごくいい事ですが、マンネリという事は協議会の中では、どういうものですか。あるとすれば対策を考えているとか。

村元委員 ちょっとずつ変えています。反省会で話が出ますから、来年変えてみるかとか。石碑めぐりも毎年コースを変えているんです。今年もりんごが終われば山に行つて新しいコースを探すことになっています。

阿保委員 確かに行事が多くなって、マンネリなのかも知れませんが、変えて変えて、変えなくてもいいところにきているという意味では、いいのではないかなと思っています。

委員長 他に感想を各委員からお願いします。

○ いろいろお話をお伺いして、昔と最近のことを思い出したりしていました。10カ所、学校でいえば11校ですがあちこち回り歩いて、だんだん感じてきたことがあるんです。昔は、どこの学校でも職員室にソファなり椅子があつて、誰でも自由に入ってきて話をしていたんです。それがだんだん学校の中になくなってきたんです。地域の人たちも入りにくくてまいねという声まで聞こえてきたんです。いろいろと原因はあるのですが、不審者問題があつて学校の玄関に鍵をかけるとか、今は禁煙ですか、それ以上に学校側の問題が多いような気がしているんです。地域の人が入ってくるのが煩わしいと感じる教職員が多くなってきている感じを受けました。学校の事は学校でやるんだという考え方、そのくせ何かあればPTAに協力を頼むという、都合いいのかもしれませんが、中の人間の考え方が変わってきているのではないのかなと。たぶん地域の方もそれを感じて学校の中に来なくなったのかなと思います。村元さんの獅子踊りについても、県の郷土芸能の大会が毎年あるんですが、そういうのに出てもらったりしたこともあつて、こういうのっていいなと思っています。学校と地域はもう少しつついて、行き来できたらいいと思って話を聞いていました。

○ 耐震の結果で要改築というのは、市のほうの姿勢としてはどのような考え方をしているのか。

→ 耐震補強は、震度6以上の地震がきたら、壊れる可能性があるということで補強します。これは児童生徒の生活する場所ですので、なるだけ早く対応します。要改築に関しては、補強が終わってから改築という作業に移ります。

○ 昔から我々は、義務と権利というのを教わってきたのですが、最近は権利だけ主張して、義務を全うしないという人種がかなり増えてきたと。どこの団体もそうですが、リーダーになる人がいない。年いった人が一生懸命やっても、次の世代がいない。何が原因しているのかわかりません。最近つくづく考えるのは、人は平等でないという

事です。人権的には平等でなければいけません、頭がいい人もいれば悪い人もいるし、体力がある人もいればない人もいるし、みんな平等ではないです。それを平等にしてしまう傾向が世の中にあるような感じがして、そうするとやれない連中は大変なんですよ。よく言えませんが、人間関係がおかしくなっているような気がします。学区の問題にあてはめてみれば、確かに小さいほうがやり易いんですよね。大きくなれば傍観者が増えていく訳ですから、そういうことも考えていけたらと思っています。

- 今日の会議の資料を見させていただいて、82ページの第3節「黒石らしさのまちづくり」の－10地区協議会核に特色のある活動展開－の下の部分が、非常にいいことを書いているなというふうに見させていただきました。地域が理想とするような事を書かれていると感じた次第でございます。そして今日、各協議会のお話を聞かせていただいて、各協議会が一生懸命地域のために、地域を良くしようと動いているのかなと思っています。地区によっては学校とうまく連携したり、そういう構築が成されているのかなと考えております。この委員会は、小・中学校適正配置検討委員会ですので、今の状況をどう考えるのかという部分も考えなければいけないだろうし、うまく協議会と学校が連携している中で、統廃合によってどういう状況が巻き起こるのかというところまで考えなければいけないのかなと感じた次第でございました。今日はありがとうございました。
- 私も今日のお話を聞いて、前述の委員さんとまったく同じ感想を持ちまして、資料の最初に書かれている文言が、もしそのまま実行できたなら、ほんとに素晴らしい協議会だろうなとつくづく感じて話を聞きました。お三方の話を聞きまして、それぞれの協議会には、やはりそれぞれの特色があって、地域の特色もそうでしょうし、伝統的な差からくるものも感じました。という中で、この協議会が学校とどういうふうに関わっていくのかという事の重要性も、これから統廃合を進める中で、議題の一つになっていくのだろうというのを感じたところです。